

第十五回本郷ふじやま公園古民家歴史部会歴史散策(金沢八景)

平成 17 年 12 月 15 日

平成 18 年 10 月 05 日(木) 金沢八景駅前 ^{10:10} ~~09:50~~ 集合 ^{10:20} ~~10:00~~ 出発

雨天の場合は翌週 09 月 12 日(木)に順延します。

10:20 10:45 11:10 11:40 11:50

金沢八景駅前－①上行寺－②長生寺－③侍従川－〔⑧内川の残雪〕－④諏訪神社－

12:00 13:00 13:15 13:30 14:15

《近くの食堂で軽食》－⑤光傳寺－⑥高照寺－⑦鼻欠け地藏－⑧上総介塔－

14:30 15:00解散

⑨朝比奈切り通し－神奈中大船行き朝比奈バス停

9:29 10:10 10:10

(参考) 公田－八景バス停－京急八景駅前

一口メモ

①上行寺 六浦 2－1

日蓮宗六浦山上行寺(元は真言宗金勝寺と称した)建長六年(1254)下総から鎌倉へ渡る船中で日蓮上人と富木常忍が船中で法論問答をいたし、六浦着岸後もこの寺で問答が続けたという「船中間答」の伝説が残っています。之を聞いた住職の普識法印も日蓮の説に感服し日蓮宗に改宗したと云われています。当時六浦橋のあたりを六浦湊の渡し場と称していました、千葉の中山法華寺第三代日祐上人が甲州身延山を往復するとき度々この寺に立ち寄っており、金勝寺を上行寺と改めました。寺の入り口東側石段を上ると上行寺東遺跡があります。発掘当時のまま残されています、ほとんど崩れて膝から下だけの磨涯仏が夕日を背にして端座しておられる姿には肅然とさせられます。すぐ脇に遺跡調査で武士や僧侶の火葬骨を納めた引っ越しやぐら群があります(引っ越しはこの小字です)。

②長生寺 六浦 2－1

浄土真宗寿楽山長生寺本尊阿弥陀如来です。

元は真言宗寿楽山無量院として釜利谷小泉にありました、康安(1361)の頃現地に移りました。文明年間(1469~86)安房から三浦に渡る船中で蓮如上人の教化を受けた住職頓乗は浄土宗に改宗し寺号も長生寺に改めました。

③侍従川 六浦 4－2 2 地先の油堤

照天姫(照手姫)の乳母の「侍従」が姫を尋ねて来たが行方わからず、此の堤から身を投げたといひます。一説に常陸で敗れた小栗判官の妾照天姫が藤沢から朝比奈峠を越え六浦に逃れようとして追っ手に捕らわれ侍従側に投げ込まれたとも云います。だが侍従川は寺中川であって光伝寺の境内を流れていた寺中川が伝説と絡み訛ったものと考えます。

侍従川下流六浦1-15内川橋の一带に金沢八景の一つ〔内川の残雪〕といわれる名勝があります。

④諏訪神社 六浦町 1670 地先

祭神建御名方命です。侍従川手前の道を遡上し諏訪之橋を渡り右側に社があります。天保元年(1830) 建立ですが、明治42年瀬戸神社に合祭され、近年元に戻り再建されました。

⑤光傳寺 六浦 4-2

浄土宗常見山無量院光伝寺 本尊阿弥陀如来 創建天正元年(1573)と伝えられています。六浦の有力者長野六右衛門が夜中に安房白浜の海岸を馬で通りかかると怪しい光を見て切り倒した、翌朝見ると阿弥陀如来の御首だった、六浦に持ち帰り忍譽靈伝を同氏にこの寺を創建して祀りました。其の後鎌倉に仏体があることを知りそれに御首を載せて本尊とされました、御首は春日彫刻で仏体は運慶作といわれています。寺に伝わる両頭蛇体弁財天は二匹の蛇が絡み合った姿の宇賀神(穀物の神様)で、三艘の大川宅から掘り出され、材は伽羅木といわれ云います。

小泉又次郎記念碑 大道 2-6

慶應元年(1865)小泉由兵衛の長男としてこの地に誕生衆議院14回当選、在職37年、護憲普選に挺身、副議長・逓信大臣・内閣参議・貴族院議員正二位勲一等瑞宝章・昭和26年87才没
昭和 40 年防衛庁長官国務大臣 小泉純也 建之

⑥高照寺 大道 2-7

真言宗高栄山宝樹院高照寺 本尊大日如来 当所三艘の谷戸にあったが火災で慶安三年(1650) 現地に移りました。

行基作と伝えられる阿弥陀三尊は宝樹院崖下にあった常福寺の本尊であった、常福寺は足利持氏の祈願所で室町時代からの古い寺で大道一帯が寺領でした。

応永二十九年(1422) 称名寺造営の費用に当てるため、大道の門前に関所を設け通行料を取っており、鎌倉六浦間の往来が多かったことが窺えます、大道は栄区飯島を通る中の道(山ノ内道路)にもあり共に鎌倉時代北条泰時によって造られた主要道路です。

⑦鼻欠け地藏 大道 1-7 4 地先

大道中学前バス停北側に横浜市唯一の貴重な磨崖仏の鼻欠け地藏が残っています。説明版に貞享二年(1685) 出版の新編鎌倉志に、「海辺の北の巖に大いなる地藏を切り付けてあり、是より西は相州東は武州なり。相武の境なるを以て界地藏と名付きます。後、風化により像の鼻欠けてあり、故に鼻欠け地藏と云いますなり」とあるが時も仏師も知ることが出来ません。天保七年(1836) 長谷川雪旦の江戸名所図絵に書き残されています。

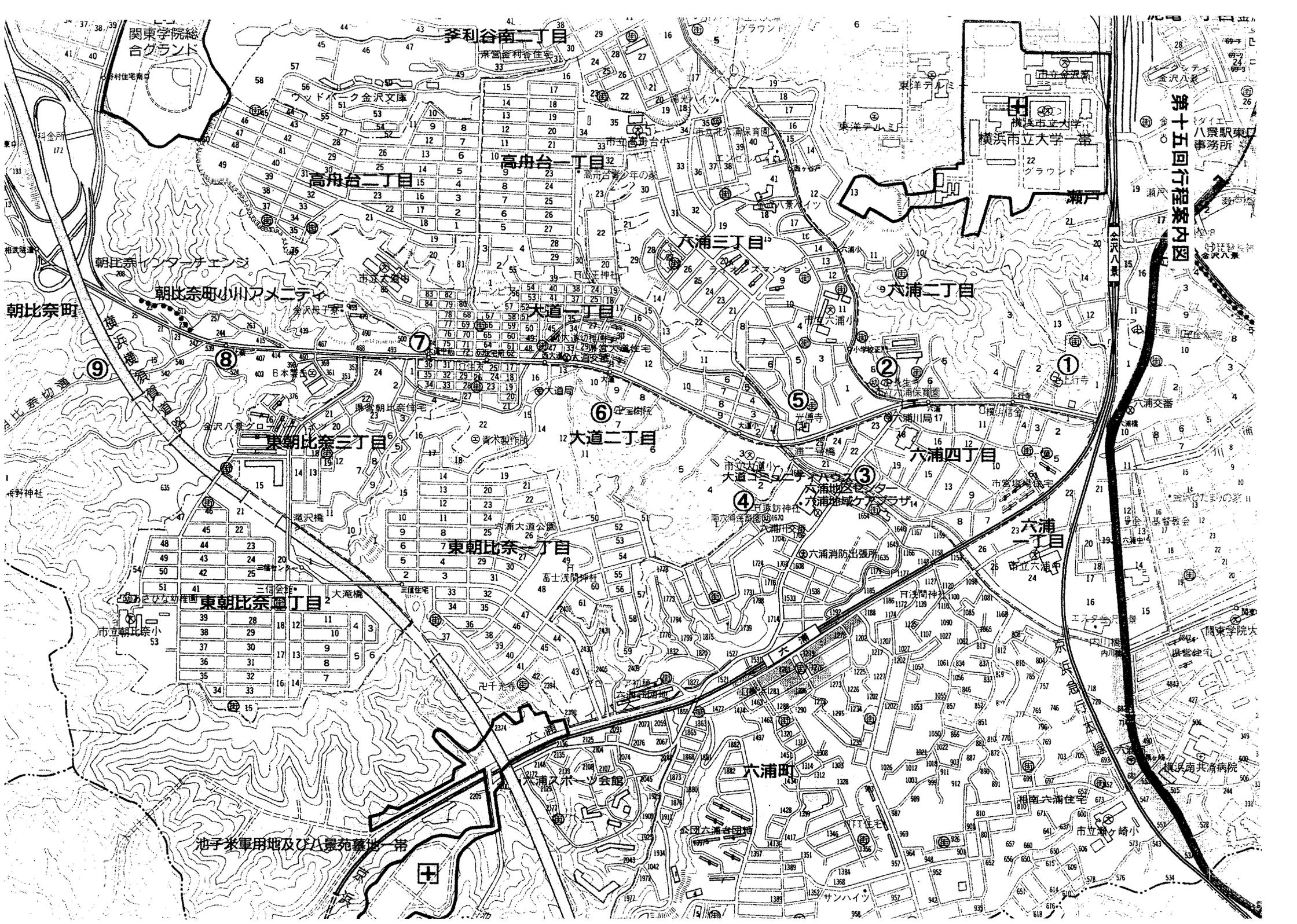
⑧上総介塔 朝比奈町 4 0 7 地先

バス停朝比奈の少し手前に上総介塔があります、平広常(千葉広常)の墓とされるものです、広常は寿永二年(1183) 讒言により頼朝に疑われ梶原景時に討たれました。屋敷跡は朝比奈峠の西側にあったそうです。

⑨朝比奈切り通し 朝比奈町539地先

北条泰時はこの道の重要性を意識し仁治二年(1241)朝比奈峠を切り開き、鎌倉と六浦の道を造り安房下総からも物資が運ばれ産業道路として又軍用道路としても重要な幹線道路になりました。当時は朝夷^{アサヒナ}切り通しとも呼ばれていました、この切り通しは国の史蹟として指定されています。工事があまりに早く完成したので朝比奈三郎義秀が一夜で切り開いたという伝説が出来ましたが、泰時が現場に出向いて指示したためであろうと思われます。伝説の主朝比奈三郎義秀は和田義盛の三男で母は巴御前といわれています、和田氏の領地安房國朝夷^{アサヒナ}郡で育てられ朝夷三郎と呼ばれていました。

朝比奈とは「東の朝日がさす野を開いた」との意味で、これが何時か朝比奈三郎伝説に結びついたといわれています。



第十五回行程案内図

八景駅東口

事務所

八景

八景